



2023. 9月第658号

発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

「それでは、あなたがたは私を何者と言うのか」(マタイ16:15マルコ8:29ルカ9:20)
このイエスからの質問は、共観福音書マタイ、マルコ、ルカに共通して描かれる最も重要な問いかけである。これに対し、弟子を代表しペテロは答える。ただし、その表現形態は、三者三様である。
すなわち、マタイは、「あなたにメシア、生ける神の子です」(マタイ16:16)と「人の子、イエス」と対応する呼称で呼び、マルコは、ただシンプルに「あなたは、メシアです」と言い、ルカは、「神からのメシアです」(ルカ9:20)と、「油注がれた王(メシア)」がこの世の王ではなく、神から来るメシア、すなわちペテロコステの後、弟子たちを口を通して語られた「あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、メシアとなさったのです」(使徒2:36)に、呼応する名で呼ぶのだ。

「瞑想」
イエスは言われた。
「それでは、あなたがたは私を何者と言うのか。」
1975年10月号より
に聴いていかなければならない。
「あなたがたは、私を何者と言うのか」。この問いかけは、ただ2000年以上前の、フィリポ・カイザリアと言うローマ皇帝の名と、当時の支配者の名を戴いた町で語られた主の言葉としてではなく、この世の

おの福音書の成立していく過程や背景、そこで行われた資料の取捨選択、また独自の付加など、聖書研究を進める上で、興味深いものがあるだろう。
しかし、私たちアシュラム運動は「書斎でうずたかく書物を積むだけでは、ふれることはできない命」(榎本保郎『アシュラム誌瞑想』)
権力者が力を振るう世界の中で、今を生きる私自身の魂に語りかけられた問いかけとして聴く、それこそがアシュラムのみ言葉に聴くと言うことに他ならないのだ。
アシュラム集會に参加した経験のある方は、ご存知だろうと思うが、アシュラムでは挨拶の言葉を「イエス

私たちにとって重要なことは、イエスの呼び名が、「メシア」なのか、「生ける神の子」なのか、「天からのメシア」なのか、そんなことが問題なのではなく、皇帝を主と呼んでいたローマの支配下で、「イエスは主なり」と公に告白したキリスト者たちのように、私の信仰の姿勢こそが問われる問題なのである。果たして私たちはその名を、私の信仰の言葉として、救いの言葉として呼んでいるか。
友よ、ある人はイエスを「我が友」と呼ぶ。またある人は、史的イエス、それを「イエスという男」だと考える。「裁き主」、「復活の主」、「再臨の主」と言う人もいるだろう。
しかし、何度も繰り返すが、大事なものは、その呼び名ではなく、そう呼ぶ私たちの信仰なのだ。
そして、それは知識の力ではなく、聖霊の力によらなければ告白することはできない。「あなたがたは私を何者と言うのか」。

主幹牧師 榎本 恵

榎本和子姉 召天のお知らせ

榎本和子姉(97歳)は、8月15日(火) pm10:49にヴォーリズ記念病院のホスピスにて、家族に見守られながら天に召されました。(当日朝まで自室でるつ子姉の介護受けつつ生活)

8月17日の前夜式、18日の告別式を神様の祝福の内に終えることができたことを感謝いたします。最後にひ孫に会えたことも感謝です。

ご参列いただいた近親者の皆様、そしてYouTubeを通して心一つにしてくださった多くの方々に御礼申し上げます。

今は悲しみと寂しさの中におりますが、神様の慰めがあることを信じて参ります。

どうか今後ともお祈りくださいますようお願い申し上げます。

なお、後日改めまして記念会を催す予定です。是非、その時には多くの皆様に、お越しいただき、共に思い出を語り、主に感謝し、賛美する時を持ちたいと願っております。

また、YouTube「ちいろばチャンネル」にて、前夜式、告別式ともにいつでもご視聴いただけます。【まずはお知らせまで】



「和子せんせー、お祈りしてますよー」今治時代の友、早天祈祷会后、Zoomでベッド上の和子母にご挨拶！
左から香川姉、杉山姉、徳丸姉、佐賀姉。

が毎週2回配達に、年度末だったので他のメーカーもカタログ配りの応援をしてくれました。中1の次男は自転車通学の許可をもらい学校帰りに父親の付き添いに、中3の長男は土曜には入荷した荷物の分別手伝いを、信徒の方は夕食を届けたり長男の高校入試日の弁当を用

月曜、土曜日迄訪問看護師、介護、リハビリ、針治療、入浴介護、ドクターの訪問を受けていました。日曜日だけ自分のペースで介護

杉山 ヒサ子
20年程前、兄が末期ガンで余命3ヶ月の宣告を受けた時、伊予小松教会(佐藤牧師)で一日アッシュラムがあり、初めて参加しました。私自身多忙な中(自営業で経理、仕入、営業、配達担当)、家で一人で留守番させられない状態の義姉を付き添いの形?で共に入院

した兄の最後の看取りへの心の準備も、したかったのだと思います。その5年位前、夫が肺結核で入院し全ての得意先(学校・保育園関係)の荷を負うことになりました。私を見かねた近所の方が息子3人(中3・中1・小6)の夕食の面倒を、

また、夫の度重なる脳出血の為、言語機能を失ったの長い障害者生活の末の末期ガン発症、緩和ケア病棟での治療後「余命は1ヶ月単位で考えて下さい」の医師の言葉と共に最後を家で迎えるべくうまく対応できるか不安をいっぱい抱えての退院でした。

第4回四国一日アッシュラムに参加して

意し助けしてくれました。それでも食する間も無い位の忙しさでした。

出来る日々でした。そして息子のサッカーの有り日は、訪問介護を頼んで応援に行き、遠く迄広がる自然と熱気あふれる人混みの中に自分を開放していました。唯一の息抜きの時でした。

1年10ヶ月の間、夫の希望通り延命治療をせず、身近な人達に見守られ旅立つ事が出来たのは、大きな感謝でした。

今回のアシユラム

は、振り返れば、仕事をしながらの看病の繰り返しでの心身の疲弊も有り、与えられた機会、と参加を申し込みました。今治教会での榎本牧師一家の記憶はずっと心に残っていました。恵牧師にお会い出来る喜びは大きかったです。聖書を開くのは礼拝に出た時位であとは狸が石を投げるとの回数、祈りは出来る位の回数、祈りは出来ない不信仰な私で

す。

でも今回のアシユラムに参加して、出来なくても形だけでも？祈らなければならぬ？祈りました。何時迄続けられるか、とても不安です。「門をたたけ、されば開かれる」の御言葉が有りますが、叩いているのは私でなく神様が私に向かって叩いておられるのでは……と思っっています。

(今治教会)



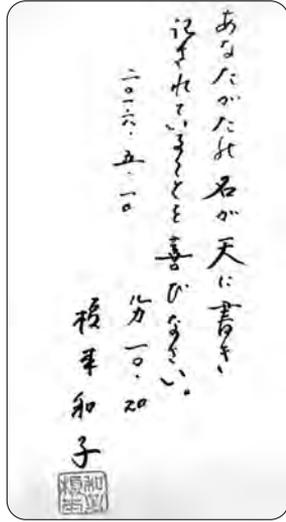
←7月天上の友を憶える日礼拝に参列して下さった方々と。瀬戸姉、松村姉、尾崎兄。



←8月13日夕礼拝。第1回ユースリトリートアシユラム参加の青年達12名も共に！和子母は、自室のベッドで、喜び祈りつつ。(アシユラム感想等、次号より。)



←巡礼の旅、慰霊の日は、伊江島わびあいの里へ。平和な世界となりますように。



←和子母が小林佳子姉に贈った聖句。サイン入り「ちいろばの女房」。写真提供は、佳子姉のご長女孝子姉。和子母百天2週間程前に、妹様と和子母のお見舞いに。

いえじま 雑記4 翻訳者という夢



ここ数年翻訳をしてきた本が、とうとうこの九月に出版されます。『母を失うこと——大西洋奴隷航路をたどる旅』というタイトルの本です。著者のサイディア・ハートマンが、黒人である自身のルーツをたどって、かつて奴隷が出荷されたガーナに旅をするという自叙伝です。けっして軽くはないテーマですが、言葉が美しく、すてきな本なので、多くの方に読んでいただきたいです。

翻訳という仕事を意識したのは、当時流行っていたハリー・ポッターを中学生の頃に読んだことがきっかけでしたが、思えば、翻訳にはその前からずいぶんお世話になってきました。『すてきな三にんぐみ』など好きだった絵本には翻訳のものも多いですし、伊江島で昔読んでいた、動物の絵のたくさん入った子ども聖書ももちろん翻訳でした。目につきにくく、労力の割に報われることの少ない翻訳という仕事ですが——ある単語をどんな日本語にしようかとうんうん唸ってばかりいます——、それでも誰かの一生の記憶のひとつとなるほどの力を、翻訳は持っているようです。『母を失うこと』が完成した暁には、控えめに翻訳者を名乗るのもいいかなあなどと思っています。

榎本 空 (ノースカロライナ大学院生、沖縄伊江島在住)



(沖縄巡礼の旅感想)そらちゃんの案内で今まで知らなかった事を教えてもらいました。ありがとうございます。それと同時に自分の無関心さを見せつけられています。ウシ年の牧子さん！いっぱい詰め込んだものを今少しづつそしゃくしています。中原牧子(沖縄在住)

瞬きの詩人

水野源三の世界 48

三浦綾子記念文学館特別研究員
森下 辰衛

ナザレのイエスよ 1967

一、ナザレのイエスよ

御神からの愛を
人からの愛を
豊かに受けられて
小鳥がさええずる
花が咲き乱れる
野原に遊ばれ
成長したまえ

二、ナザレのイエスよ

汗ほこりにまみれ
苦しい労働
たえしのびはげみて
母に孝つくし
幼い兄弟の
めんどろを見られ
成長したまえ

三、ナザレのイエスよ

一日も早く
成長されて
古里をいできて病む人をいやし
悪霊を追いだし
福音を語られ
貴きつとめ
果たしたまえ

「みどりも深き」の讃美歌のごとく、ナザレで成長されたイエスに源三さんは思いを馳せています。小鳥、花に囲まれ、野原に遊ぶイエスは、被造物の友となるために、被造物になって来られ、被造物の中に共に棲まわれました。神に愛され、多くの命に囲まれ、人からの愛も受けられました。そして、それは家族に愛され、自然の中で、多くのやさしい命と共に生きて、育まれていた9歳までの源三さん自身の体験に

重ねられたものでもあったでしょう。

だからでしょうか、ここに歌われる小鳥や花や野原も「古里」も、パレスチナであると共に、信州の千曲川のほとりのように感じられます。すぐ近くの、同時代の、同じ空間にいるかのようにイエスが見られています。そうしてみると、このイエスへの呼びかけはまた、坂城の子どもたちへの慈しみとエールと祈りとして読むこともできるでしょう。

二連では、少年時代から青年時代のイエスを思っています。ある平凡な庶民の一家族の中に、人間の子どもとして生まれたイエスは、人の仲間であるゆえに、額に汗する世の労働と家族における務めを果たしながら成長していかれました。その姿も、身体的な自由が失われていなければ、源三さん自身のあり得た姿でもあるでしょう。母に孝をつくし、兄弟のめんどろをみるという、少しアジア的な家族倫理観も親しい感触で綴られながら、そうして愛によって十戒を果たしつつ大人へと成長する様もまた、若い世代の人々への応援歌でもあるのでしょうか。

三連では、遂に時が満ちて使命の道の方へ歩み出すべきイエスを、やはり目の前に見ているかのように、源三さんは呼び出しています。「古里をいできて」とは、多くの優しい命と家族の愛とに囲まれた場所から出で立つこと、果たすべき「貴きつとめ」とは、病む人のいやし、悪霊の追い出し、福音を語ることでありますが、最終的には、この幼児であり少年であり青年であった方が十字架に架けられて死ぬことでした。

そのすべてが神の計画とわざの物語の中にあること。幼時も、少年時代も、青年期も宣教の旅も受難も死も、すべてこのはじめの野原からの物語の中にあり、そこで起きていることであって、何も変わらないということ。二千年後の今も、私も、坂城もその同じ神の物語の世界にあるという真理です。源三さんは、イエスを聖書に閉じ込めないで、語りかけ、呼び出す声になれる人なのだと、その自由さに驚かされます。

主幹牧師の2022年度の振り返りと2023年ビジョン(6)

第48回
年頭アシュラムにて
語られた

また、台湾のアシュラムについては、特に、昨年50周年の記念の年を迎え、センターとしても共に喜びを味わいたく願っておりましたが、やはりコロナの感染拡大のため、行く事が叶わず、ビデオでのお祝いにとどまったことを大変残念に思っておりました。しかし今年2月の台湾愛修会へのお誘いをいただき、今のところ、榎本光太と共に行く予定です。

思いますと、50年前、父榎本保郎が台湾伝道へ行った頃は、台湾全土に戒厳令が敷かれ、政治的に大変不安定な時代でありました。1980年には、台湾基督長老教会の総幹事であった高俊明牧師が逮捕投獄され、大変な危機的時代を迎えましたが、その状況下でもアシュラムセンターは台湾アシュラムと交流を続けました。

その後台湾は民主化を成し遂げ、釈放された高牧師は、政府の要職に就かれ、また台湾愛修会の推進者として、アシュラム運動に貢献してくださいました。3年前に天に召された高牧師の記念会の出席が、最後の台湾訪問になりましたが、皆様ご承知のように、現在台湾をめぐる国際情勢は大変厳しいものとなってきています。その中で、台湾アシュラムとの交流を続けていくことは、神様から託された私たちアシュラムセンターの重要な役割ではないかと信じています。

今年は、延期されていた新潟での「国際正義平和アシュラム」が開催されようとしています。どうかこの2つの国との国際的交わりを覚え祈ってください。

1) 国際正義平和アシュラムについて

台湾愛修会との協約に基づき、私たちアシュ

ラムセンターと台湾愛修会は、各年ごとに、「国際正義平和アシュラム」を開催してまいりました。一昨年は、日本の担当で、新潟において、第18回目のアシュラムを開催する予定でしたが、コロナのため延期となり、先程、新潟アシュラムの吉澤牧師からもありましたように、10月31日～11月2日に、月岡温泉「泉慶」を会場に、2泊3日のプログラムで行われます。台湾からの参加者も含め、定員90名を予定しております。特に、特別講演を、前敬和学園大学学長、日本新約学会会長の山田耕太先生にお願いしており、また2日目の「平和の夕べ」は、敬和学園高校礼拝堂をお借りし、天上の音楽 日比野則彦氏、愛子氏ご夫妻に音楽のご奉仕をお願いしております。またアシュラム終了後は、台湾からの参加者を中心にし、佐渡島へのスタディーツアーも計画しております。

吉澤牧師をはじめ新潟のアシュラムの友が、このために多大なご尽力をしてくださっております。どうか、このアシュラムにしかできない、平和を求める交わりに、多くの方々にご参加いただけるよう祈ってください。(続く)



前回の国際正義・平和アシュラムin札幌(2019. 秋)。後列左 吉澤師(新潟開催実行委員長)、湯野姉、岩城兄、康子、前列 恵師、ジュラ師、郭師、キャロル師。

あとかぎ

地球沸騰化、日替わりでやって来る台風。この夏私たちは、この異常気象に翻弄されました。

ロシアとウクライナとの戦争は終わりが見えず、年々深刻さを増していく世界情勢にあつて、まさに必要なことは私たちが人間の力の限界を知り、全てのものに立ち返ることである。強く思う。

10月31日～11月2日までの日程で、第18回国際正義平和アシュラムが開かれる。

「平和への道があるのではない。平和こそ道である。」ガンジー翁のこの言葉こそ今、耳を傾けなければならぬ。

真の平和とは、戦争のないことではなく、地球環境、あらゆる人々の人権、正義を含めた平和が行われることである。是非多くの人が新潟に集い、共に祈り、み言葉に聞いて参りましょう。(恵)

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。
直前の変更の場合あり！

9月の聖書教室など

【主な問い合わせ先】
0748-33-4030
アシュラムセンター

1(金)	阪神ミニアシュラム(神戸聖愛教会 PM1:00)
2(土)	加古川祈りの家(小林清子姉宅 PM1:00)
5(火)	Zoom聖書教室(AM10:30、PM7:30)
9(土)	聖書と学ぶ会(ZOOM PM8:00)
11(月)	福岡聖書教室(博多クリオコートホテル PM1:30)
15(金)	センター聖書教室(アシュラムセンター AM11:00)
18(月)	箴言に学ぶ会(ZOOM AM10:30、PM7:30)
19(火)	大阪聖書教室(大阪クリスチャンセンター AM10:30)
20(水)	みんなのカフェいちば聖書入門講座(京都・伏見区深草 PM1:30)
24(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝(PM5:00)
25(月)	静岡聖書教室(旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
26(火)	東京聖書教室(御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
26(火)	しみじみする会(桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30)
27(水)	美しい足の会(ZOOM AM10:30、PM7:30)
10/6(金)	阪神ミニアシュラム(神戸聖愛教会 PM1:00)

9月のアシュラムなど

18(月) 19(火)	第23回 京都桃山アシュラム 奉仕者 櫻本 栄次師、春名 康範師、 山本 一師(関西セミナーハウス) 090-9250-0129 米澤敏子姉
28(木) 29(金)	第11回 日光オーリーブの里アシュラム 0748-33-4030 奉仕者 櫻本 恵師 アシュラムセンター
30(土)	水戸バプテスト教会一日アシュラム 0748-33-4030 奉仕者 櫻本 恵師 アシュラムセンター

10月のアシュラム予定

10月2(月)~3(火)	第47回 山陰アシュラム
10月12(水)~14(金)	加太アシュラム
10月17(火)	第27回 埼玉一日アシュラム
10月19(木)~21(土)	修道場アシュラム
10月31(火)~11月2(木)	第18回 国際正義・平和アシュラム in 新潟

11月以降のアシュラム予定

11月1(火)~3(木)	第48回 京浜アシュラム
2024年1月25(火)~27(木)	第49回 年頭アシュラム



←常任運営委員のための
修道場アシュラムを終え、
上の友を憶える日礼拝の準備の前に。

みことば



日本基督教団仙台宮城野教会牧師
アシュラムセンター協力牧師
齋藤 篤

だから私たちは落胆しません。私たちの外なる人が朽ちるとしても、私たちの内なる人は日々新たにされていきます。

コリントの信徒への手紙二 4章16節

この聖句は、8月16日の『日々の聖句(ローズンゲン)』に示された、新約聖書のみことばです。ローズンゲンを日々の祈りに用いておられる方は、幾度となく経験されておられることと思いますが、神はまるで狙ったかのように、その日に最もふさわしい言葉を何のためらいも無く与えてくださるのです。私がこの冊子の編集に携わるようになって以来、ローズンゲンを介した出会いのなかで、何度も耳にしてきたことです。

その前日、15日の晩に、私の敬愛する、そして皆さんも敬愛されるアシュラムの友が、神の御許に召されました。信仰者として、そして牧師の妻として、子を持つ母親として、そしてアシュラム運動をこよなく愛するひとりとして、その人生を過ごされました。私は、その姉妹との出会いが2年前に与えられました。姉妹の最晩年のほんの少しの期間でしたが、お目にかかるのが本当に楽しみで、その一回一回の機会を大切にすることができました。

ある日、姉妹が愛用しているローズンゲンを見せてもらいました。決して広くない余白部分に、びっしりと書き込みがなされているではありませんか。祈りの言葉、黙想の言葉が書き記されているのです。時には関連する話題が掲載された新聞記事の切り抜きも挟まっていました。ここまでローズンゲンを大切に用いてくださることに、心から感動させられました。そのこともあって、今年版より少しサイズアップして、余白をさらに設けたくらいです。

みことばに聴き、そして祈り、主なる神に従う。この営みの繰り返しこそ「日々新たに生かされる」ことへの基本であり、土台なのだ。たとえ身体が古い、思うような働きができなくなるくらいに朽ちてしまったとしても、魂はますます豊かにさせられるというパウロの言葉に思わずうなってしまう。そして、姉妹の生きざまのひとかけらを見せてもらった者として、私もおかしくあれかしと願わされたのでした。

「また、いらしてくださいね。その時には、起き上がっていますから。」和子

